

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第43号
2023年9月26日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

どこまで信じ続けるのか

「中村文則の書齋のつぶやき」 毎日新聞 8/3付を読んで

世話人 中野一美

毎日新聞に、芥川賞、大江健三郎賞作家の中村文則氏のエッセイが載っていました。なかなか鋭い、考えさせられる内容でしたので、以下要約して紹介します。

毎年、ひどい水害がある。災害に強い国をつくる必要があるけど、日本はお金のない国になった、なのに2023年からの5年間で、防衛費を総額43兆円にするという。43兆円。これが他のことに使えれば、災害に強い国作りだけでなく、現在の日本の様々な問題を解決できるに違いない。

日本は平和憲法を持つのに、これから世界3位の軍事費の国になるという。正気の沙汰じゃない。財政が瀕死の状態なのは周知の事実だ。 中略

アメリカから、日本はもっと兵器を購入するのだろう。すでに不必要なものも多いと専門家から、さまざまに声が上がっている。アメリカ政府から直接、兵器等を買う「有償軍事援助」(FMS)の予算だけで(一般輸入はまた別)、民主党政権時、東日本大震災前の2010年で約570億円だった。

そして安倍政権下で激増し、コロナ禍前の2019年で約7013億円。驚きの増額だが、2023年はどうかと言うと、約1兆4768億円になっている。尋常ではない。これがさらに、跳ね上がるのだろうか。僕は支持政党はない。仮に野党が政権を取っても、おかしいことは批判する。当然だ。でも中には、自公政権がやることなら、何でも支持する方々もいる。そういう方々は、例えばこの金額がどれだけ増えたら、批判に転じるのだろうか。そこを僕はとても知りたい。今後5年間の防衛費、43兆円は批判しないなら、では80兆円ならどうか。200兆円でも肯定するだろうか。現在でも財政は最悪だが、さらに国が亡びレベルまで悪化するので、増税は間違いない。



中村文則氏 8月3日 毎日新聞より

法人税を減らした分を消費税で賄っていると、よく言われる。その企業たちは約500兆円の内部留保があると言う、もうわけがわからないギャグのような状態なのが今の日本だ。それでも現在の消費税を批判しないなら、では20%ならどうか。30%ならどうか。その分私たちの生活は苦しくなるが、政府を擁護し続けるのだろうか。現在の日本はもう底が抜け減茶苦茶だと思うが、どれくらい減茶苦茶になれば、批判に転じるのだろうか。

第2次大戦の日本がそうだったように、最後までだろうか。当時、日本は、政府は頼りになると国民を騙し続け、滅び一歩手前まで行くことになった。

あとそもそも、アメリカは日本を舐めすぎだと思う。何でも買うと思われている。まあ何でも買うんだけど。しかも借金してまで。



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

「荒野に希望の灯をともし」を観て

報告 世話人：問山尚義

前号で紹介した、ペシャワール会、故・中村哲氏の活動を追ったドキュメンタリー映画の劇場版が、メディアコスモスで上映されましたので、観に行ってきました。「劇場版」ということで、前42号の田口さんのレポートによるものと、編集が少し異なるようです。

当日は会場いっぱいの観客でした。西濃民商での幹旋枠による優待券での鑑賞で、県内の他の民商の会員さんの顔も見かけました。

前号の田口さんのレポートと、なるべくかぶらないように、また、書籍「天、共に在り～アフガニスタン三十年の闘い～」の内容からも併せて紹介していきたいと思います。

▼何故アフガニスタン、パキスタンと関わるようになったのか

中村哲氏は昭和21年生まれ、ミッション系の中学で内村鑑三の著作に感銘を受けクリスチャンとなる。また、近所の郵便局長さんの影響で昆虫マニアでもあった。九州大学医学部を出て、1978年6月地元の病院勤務の最中に、福岡の山岳会「福岡登高会」のヒンズークシュ遠征隊に帯同医師として参加したが、珍しい昆虫に出会えるかも知れないとの興味が動機だったという。

現地は、とても人は住めないだろうと思えるような荒涼とした土地だったが、それでも医者が来るとのうわさが広まると、山岳隊の周りにどこからともなく人が集まり、「診てくれ」と言う。山岳隊のための薬は使うわけにいかない。何もできない、無力感だけが残った。

この時味わった無力感へのリベンジの感情が、哲氏を突き動かすことになった。

▼「反撃を厳禁する！」「皆殺しにされてもか？」「そうだ皆殺しにされてもだ！」

1993年10月、アフガニスタンで氏の診療所が襲撃された。診察又は薬の順番をめぐる些細なきっかけだったが、中村氏は銃による応戦を厳禁した。反撃が無いので銃撃は止んだ。翌日、地域の長老に事情を告げ、長老たちは非礼を詫び事は解決した。

このエピソードは、かつて博多で、港湾の荷の積み下ろしを担った「玉井組」を率いた玉井金五郎に重ね合わせる識者がいる。他の組との果たし合いのとき、話を付けて来るとして「俺が殺されても手を出すな」と血の気の多い若い衆を止めたという。玉井金五郎は哲氏の祖父であり、氏の叔父にあたる火野葦平の手による小説『花と龍』のモデルとなった人物である。

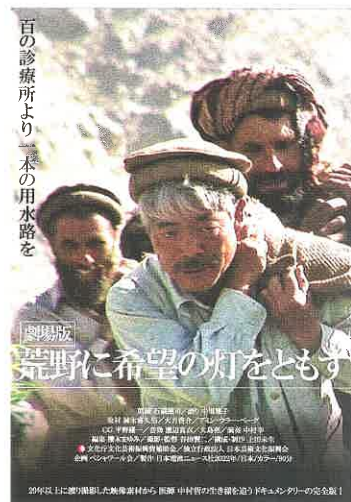
▼早魃下での経済封鎖と自衛隊派遣、次男の死

2001年の9.11の後、「タリバン＝テロリスト」の凶式のもと、早魃下で苦しむアフガンにあらうことか経済封鎖がなされた。アメリカが発動する「対テロ報復戦争」後の「復興」に日本の自衛隊も「非軍事」で駆り出されることになった。同年10月中村氏は参考人として国会に呼ばれ意見を求められ、こう発言した。「自衛隊の派遣は有害無益であります。大事なことは飢餓状態の解消です。」その時自民党席から口汚いやじが飛んだ（映画ではカット）。前号で紹介されていた中村氏の次男の死はこの後だった。

▼早魃、洪水、自然の奥深さを思い知らされる。

まっとうな水を求めて井戸を掘り、農業で自活できるようにと水路を造る。地元で維持管理できるようにと「蛇籠」を使った河川改修など、米軍の攻撃ヘリの誤射の下でも工事を続け、あれほど水を渴望していたのに、2010年8月未曾有の洪水が襲い、重要な堰や取水口が破壊された。自然は思い通りにならない。川側から人里を覗よう。取水システムの見直しが始まった。

「人間は自然が許容する範囲で生きねばならない。」書き留めなかったので言葉の正確さは定かでは無いですが、石橋蓮司氏の重厚なナレーションで語られた言葉が、中村氏が晩年辿り着いた境地かと感じた次第です。



特別ご優待券

当日、本券ご持参の方は、お1人様

1000円 (当日1500円のところ) で入場できます。

8月30日(水)

①9:30②11:30③13:30 (3回上映)

ぎふメディアコスモス
みんなのホール

主催：シネマソラ ☎090-8194-4804

mail:cinema_sora_0416@yahoo.co.jp

※上映当日の優待券を添えて会場受付にてお支払いください。(1枚3名様有効です。)

※満席の場合は、入場を制限させていただきます。ご了承ください。

「戦争のお話を聞く会」(養老町図書館主催)に参加しました!

報告: 佐竹 哲 (世話人)

8月26日、養老中央公民館で「戦争のお話を聞く会」(養老町図書館主催)が開催されました。会は二部構成で、第一部は私が「満蒙開拓団の悲劇について」という講題でお話させていただき、第二部で右の記事の通り遺族の陸田敏弘さんが講演されました。

陸田敏弘さん(83)の父・繁義さんは1944年にサイパンで戦死、出征時に地元の大跡住民らが寄書した日章旗が今年、約80年振りに米国テキサスの博物館より返還されたのです。返還の経緯は、偶然が重なったことと陸田さんの知人の執念によるもので、不思議という他ありません。この日章旗は米国の戦利品として博物館に展示してあったのですが、今は日米関係が友好だから返還が実現したのでしょう。陸田さんは、お父さんと再会できたような喜びと共に、非戦

平和の大切さを新たにされた思いを語ってくれました。

私の講演についても、残り紙面にて少し説明させていただきます。1932(昭和7)年、日本は「満州事変」を経て中国東北部に「満州国」を建国します。その侵略した満州の土地に、開拓移民を日本国内で募集し、敗戦まで約27万人を送ったのです。養老町からも開拓団員21人・義勇隊員(15歳から18歳の青少年を含む)26人が海を渡ったのです。そして敗戦時には22万3千人の開拓民が残され、命からがらの逃避行を余儀なくされました。岐阜県の開拓民約9,600人のうち現地死亡3,589人、未帰還357人という悲惨な数字が記録されています。紙面では数字だけを記しますが、それだけでも満蒙開拓団の地獄の様相が想像できます。

8/27

(第3種郵便物認可)

「奇跡的で信じられない」

養老 日章旗返還の陸田さん講演

講演会の参加者に写真パネルで父の日章旗を説明する陸田さん—養老町中央公民館で

太平洋戦争で戦死した父の遺品の日章旗が米国の博物館で見つかり、七月に返還を受けた陸田敏弘さん

六日、同町中央公民館で講演した。町民らに返還の経緯を報告し、「戦争が一度

とあってはならないと次世代に伝える象徴的なできごとだった」と振り返った。陸田さんの父繁義さんは一九四四(昭和十九)年に激戦地のサイパン島に出征し、同年に戦死。その際、地域の住民らが署名した日章旗を持って戦地に臨んだとみられる。その後の経緯は不明だが、テキサス州の博物館で一九九四年から特攻隊員の寄せ書きとして展示されていた。三月に館を訪れた人が日本側の関係者に知らせたことが返還のきっかけとなった。

陸田さんは、繁義さんの出征の際に撮影された家族写真に日章旗が写っており、「武運長久」や名字を誤って書かれた「陸田」の字が一致したのが特定の決め手となったと説明。関係者が探し始めてから一カ月ほどで陸田さんに連絡が届いたことを「奇跡的で今でも信じられない。父の帰国したい気持ちと、亡き母のすべに会いたい気持ちが呼び起こしたのではないかと話した。

講演は養老町図書館が主催した「戦争のお話を聞く会」の一環。養老町蛇持の祐泉寺の佐竹哲住職(今)は旧満州(現中国東北部)などで多くの犠牲を出した満蒙開拓団について解説した。(今井智文)

「中日新聞」西濃版 8/27

◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

★「教育と愛国」上映会

日時：9月30日（土）10時～、14時～ 参加費 ¥1,000

場所：岐阜市役所隣り、メディアコスモス みんなのホール

主催：岐阜「教育と愛国」を観る会 Tel.090-5039-3192（岩田）



★ マイナカード学習討論会／講師：濱嶋 将周 弁護士

日時：10月8日（日）14時～16時

場所：スイトピアセンター学習館6-1

主催：9条を守る西濃共同センター Tel.0584-74-0352

★ ともがき大学学習会／太田・小川両弁護士入所記念

日時：10月15日（日）14時～16時

場所：ソフトピア 10F 特別会議室

講師：森 弘典 弁護士、演題：「生活保護と社会保障…」

主催：ぎふコラボ西濃法律事務所友の会 Tel.0584-81-5105

★ 彰元さんのつどい / 講演と紙芝居

→別紙チラシあり

日時：10月21日（土）13時半～

場所：垂井町岩手 明泉寺

講師：田中信幸氏（教科書ネットくまもと事務局長）

「父の戦争をともに背負う」

主催：真宗大谷派大垣教区 Tel.0584-78-3363

★ 9条の会・おおがき総会と映画上映会

日時：10月29日（日）14時～

場所：スイトピアセンター 学習館3F-301

映画：「ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記」上映協力券 ¥1,000

主催：9条の会・おおがき、西濃法律事務所内 Tel.0584-81-5105



★ ぎふ平和の集い

→別紙チラシあり

日時：11月3日（金）13時半～

場所：岐阜市民会館大ホール 入場料 ¥1,200（前売り¥1,000、⇒世話人まで）

対談：「なぜ戦争への準備なのか～平和への道を探る」

演者：望月磯子さん（ジャーナリスト）と白井聡さん（京都精華大学准教授）

主催：同実行委員会 Tel.090-2688-5284（青木）

編集後記

思いがけない残暑の中、会員のみなさんはいかがお過ごしでしょうか。四季の中から春と秋が無くなるのではとの危惧も一瞬頭をよぎります。

先日19日の9月の世話人会では、各種行事が再開されつつある中で、秋は日程がタイトになり、独自規格に踏み出せないまま12月初旬はどうかとの案も出されています。

本会報では▼新聞記事から1題▼映画劇場版「荒野に希望の灯をともし」の再報告▼戦争を語る会のレポートの3題としました。会員のみなさんで啓発に有用なDVDをお持ちでしたら、世話人までお知らせください。

世話人 問山尚義

連絡先

「9条の会・養老」世話人

090-9183-0444 中野一美（代表）

090-9894-0444 佐竹 哲

090-2348-0719 問山尚義

090-8733-0090 禿 憲正

fax（問山）

0584-71-8746

E-mail（問山）

toiyama@ninus.ocn.ne.jp